

講評

I

出典 多田道太郎『しぐさの日本文化』、講談社、2014年

『しぐさの日本文化』に取られる「寝ころび」からの出題です。寝ころぶことが日本でどのように捉えられているかということ、地域的なことや歴史的なこととも関連させて述べています。古めかしい表現もありますが、決して難しい文章ではありません。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号①～⑦）

漢字の書き取りはわかりやすい字で書く必要があります。一画を大事に扱うようにしましょう。

問2【空欄補充】（解答番号⑧～⑩）

空欄Ⅰには評価と関連する③が正答です。空欄Ⅱの後文に「妙なことに感心してしまった」と記されることから、ここも評価に関連する言葉が入ります。正答は⑧です。空欄Ⅲの正答は⑤です。

問3【空欄補充 内容理解】（解答番号⑪）

「寝ころび」ことが無警戒、普通の人にはできないと本文に記されています。前文までを踏まえれば、正答は③です。

問4【空欄補充 内容理解】（解答番号⑫・⑬）

物ぐさ太郎は寝ているだけなので空欄Ⅴの正答は②です。空欄Ⅵの直後に対極的形態とあります。②の対極は⑦活躍です。①英雄も入る可能性がありますが、その後にある「形態」とはいえませんが、さらに、空欄の1行前に「物ぐさ太郎と西郷隆盛という二つの～」とあります。文の流れからすると空欄Ⅴには物ぐさ太郎に関する事、空欄Ⅵには西郷隆盛に関する言葉が入ります。

問5【空欄補充 内容理解】（解答番号⑭）

空欄甲を含む前後には、いわゆる本音と建前が書かれています。機械に合わせているという現実に対して空欄甲があるということです。正答は⑥です。正答率は36%でした。

問6【空欄補充 内容理解】（解答番号⑮）

後文がヒントです。動作に移りにくいということにつながる慣用句を選ぶと⑥が正答となります。

問7【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号⑯）

「寝ころび」ことの評価をどうするかということです。冒頭3段落の内容を踏まえると正答は①です。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号17）

正答は⑤です。①その効果を認識し、②熟知し、③寝ころびが警戒を示す姿勢～逆手にとって、④会談に有効であるという意外性、⑥小説は問題とは関係がない、以上の点が間違いです。正答率は44%でした。

問9【傍線部の理由説明 文脈把握】（解答番号18）

傍線部を一言加えて丁寧に見ると、本読む時に机に向かう必要があるのは錯覚であるということです。錯覚の理由として筆者は歴史的事実を引き合いに出している。この経緯を押さえれば正答は④です。正答率は49%でした。

問10【内容合致】（解答番号19）

正答は②・⑥です。①転換させている、③仏書は本文にない、④誰もが考えてこなかったことである、⑤寝ころぶことが人間にとって考える上での最も合理的な姿勢であること、⑦「かつて」が間違い（現代の話）、⑧来客者に対して気配りができることが人気の理由とは異なる、以上がそれぞれの選択肢の間違い個所です。

Ⅱ

出典 河合隼雄『これからの日本』、潮出版社、1999年

近代医学では病や老いに対応できなくなっているという現状の中で、新たな医療が求められているという内容の文章です。文章が長いため、近代医学、医療、宗教について筆者がどのように捉えているのかを把握しながら読み進めることが求められます。

問1【漢字問題】（解答番号20～27）

8問とも正答した受験者はいませんでした。正答を示しておきます。

a 駆除 b 確固 c 克服 d 精密 e たずさ f 尊重 g 威力 h 教義

問2【空欄補充 文脈把握】（解答番号は28・29）

空欄Ⅰは、近代医学と神や仏との関係が理解できていれば正答③が、空欄Ⅱは、医療についての筆者の考えが理解できていれば正答①が導き出せます。正答率はそれぞれ78%、89%でした。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は30～32）

空欄アの後に「この方法の確立」とあり、正答は⑤となります。空欄イには近代科学の特徴が入り、正答は②です。近代科学者が宗教を盲信・偽物と判断する根拠は「非科学的であるかどうか」なので、空欄ウの正答は④です。正答率はそれぞれ31%、40%、80%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号は33）

心と体の切断を前提とする医学によって心身症が増加しているという、この段落の内容から考えると、正答は③です。正答率は67%でした。

問5【傍線部の理由説明 内容把握】（解答番号は34）

正答は④です。①は明らかに誤りです。②は、「宗教」が正しいことが立証されるわけではないため誤りです。本来の宗教性から逸脱した方法をもって「癒し」を行おうとする危険性は「宗教」について述べられていることなので、③も誤りです。「宗教に対抗する」ことが目的ではないため、⑤は誤りです。正答率は58%でした。

問6【内容理解に関する問題】（解答番号は35）

「適当でないもの」が問われており、正答は③です。「宗教」によって「効果」が出たとしても、近代医学の手法がないがしろにされるとは書かれておらず、④の内容は誤りです。正答率は29%でした。

問7【内容理解に関する問題】（解答番号は36）

「適当でないもの」が問われており、正答は⑤です。「医療」においては観察者と現象との関係の存在を前提としなくてはならない、というのが筆者の主張であり、⑤の内容が本文と合致しません。正答率は49%でした。

問8【小見出し補充】（解答番号は37）

筆者がこの章で問題にしているのは、科学が切断した「関係」をいかにして回復するか、という問題であり、正答は②です。正答率は9%でした。

問9【内容合致】（解答番号は38）

正答は③・④です。①・②・⑥は明らかに誤りです。「効果」が発揮される宗教について筆者は「気をつけねばならない」と述べており、⑤も誤りです。⑦は近代医学が「無力になっている」の部分、⑧は「近代医学はいったん否定される必要がある」の部分が誤りです。正答率（完答）は24%でした。